

平成26年6月23日

東京都議会

議長 吉野 利明 様

神宮外苑と国立競技場を未来に手わたす会  
共同代表 4名(大橋、酒井、清水、多児)が  
住所、氏名を自署し、4通の陳情として提出

## 陳 情 書

件名 **新国立競技場建設の見直しに関する陳情**

願意 メインスタジアム計画には、招致都市として都が積極的にかかわり、IOC アジェンダ21の指針に沿って、現国立競技場を改修して使っていくことに方針を切り替えるよう独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)に働きかけてください。

理由 1. 2020東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムとして計画されている巨大な新国立競技場は、風致地区として都民が大切に守ってきた神宮外苑の環境を大きく損うばかりでなく、建設費や建てられた後の維持管理費が膨大になることが予測され、現在及び将来の都民の生活に大きな負担を強いるものです。現国立競技場を改修して使うことは、世界の潮流でもあり、負担を最小限にとどめる解決策です。

2. 新国立競技場が予定されている神宮外苑は、東京都景観計画により「首都東京の象徴性を意図して作られた建築物の眺望の保全に関する景観誘導」すべき4つの建築物のうちのひとつ、聖徳記念絵画館があり、東京都の定めた風致地区として都民が大切に守ってきました。しかしながら今回の新国立競技場は神宮外苑の自然と歴史景観を無視した計画で、しかも、設定された予算、敷地を大幅に超え、サブトラックもない競技場です。このデザインが選ばれたことは審査員の責任が問われるべきものであり、そのような建築に都民の税金を抛出すべきではありません。

3. オリンピックムーブメント・アジェンダ21(以下 IOC アジェンダ21) という、オリンピック開催にあたっての環境指針では、持続可能なオリンピックを実現するために競技場は既存の施設を最大限活用し、どうしても新設しなければならない場合は、地域の法規に従い、周辺環境との調和を図るよう求められています。新国立競技場は、この指針を無視した計画であり、新設の巨大施設の建設及び維持管理は将来に重い負担を残すものです。

4. 諸外国の成熟都市では70年、80年を経た競技場を改修して、オリンピックスタジアムやワールドカップのスタジアムとして活用することが、当たり前になっています。現国立競技場を改修すれば、新国立競技場を新設する費用の半分で済むため、都民の税金を投入する必要はありません。その上、「もったいない」という日本人の美徳の表現として世界中から高く評価されるでしょう。

以上